

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4570300667
法人名	株式会社 悠隆
事業所名	グループホームさくらの杜
所在地	宮崎県延岡市夏田町345-1 (電 話) 0982-42-2554

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年6月22日

【情報提供票より】(19年 6月 7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	15 人 常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算 11.7

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷 金	有(円) ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	120 円	昼食	240 円
	夕食	240 円	おやつ	66 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(6月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	田中医院・西階クリニック・早田病院・泉歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>田園風景の中に位置し、1階は有料老人ホーム、2階がグループホームとなっている。階段での出入りの為、外出の際には職員が必ず介助や見守りを行っている。2ユニットは廊下でつながり雰囲気としては一体化している。運営上では特に入居者へ対して「人生の先輩」という視点が徹底しており、入居者にとって気持ちの良い時間が流れているホームである。管理者・職員共に外部評価を十分に理解し、出来る限りの取り組みを行っている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義については管理者・職員共に理解し、前回改善課題とされた鍵を掛けない工夫や、食事の職員参加の工夫など、改善がみられている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価表の作成時に管理者を含めてチェックし、その過程での気づき等を職員で振り返り話し合いをしながら、取組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、行政・家族・入居者が参加している。会議ではホームの活動内容や、規定の変更等報告し、理解、また意見を求め検討し、サービスの質の向上に取組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族の訪問時や家族懇談会時には、必ず近況等の報告をするとともに定期発行の手作り新聞を発送するなどご家族との連携に努め、意見や要望の言いやすい環境づくりに取組んでいる。出た意見や要望は真摯に受けとめ、改善に向けた努力がみられている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地区の祭りには参加したり、地域の公園の自主清掃を入居者と共に行ったり、近所のバラ園への散歩など、地域への繋がりを進めているが、自治会の加入や、非常時のご近所の支援など、更なる今後の連携に期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念はあり掲示もされているが、ホーム独自の理念が作られていない。	○	法人の理念を基本としながら、地域密着型サービスとしてのホーム独自の理念をわかりやすく具体的な言葉として、作成し掲示してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「その人らしく」を大事に日常の介護において具体的に理念を実践している。言葉つかいなど、介護行為は理念を根拠とするように努めており、スタッフも理解し取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	盆踊り大会に希望者は参加したり、公園の清掃も希望者が定期的に行っており、ホームとして地域との連携に勤めている。		自治会への加入や、積極的な地域・ご近所へのホームのPR等、地域・ご近所にホームの活動をもっと知ってもらうように取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が「評価」の意味・意義を正確に理解し、職員にも周知、理解され、改善の工夫が見られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催し活動内容の報告や料金改定の提案等行っており、委員に意見を求め、活発な意見交換が出来ている。意見で提案された件は、改善が出来るように取り組みがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	料金改定など、管理者で判断が迷うような場合は随時、市町村へ相談を行っており質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来訪した際に(入居者の家族等が毎月1回は来訪されている)、近況の報告、金銭出納(小遣い)帖の状況の説明及び捺印をもらっており、また季節ごとにホーム便りを発送し、家族との連携に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族懇談会を行っており意見や要望を聞いてサービスに活かすよう管理者及び職員も心がけている。	○	家族会で話し合われた内容など、職員への周知を徹底するために、内容記載の文書への各職員の捺印や、あまり意見・要望を出されないご家族等の訪問時に、さりげなく聞き出すなどの更なる取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の処遇の改善(条件等)を行うなど、最小限に離職を抑えるよう努力をしている。介護職員が変わる場合は、入居者へのダメージを最小限に抑えるために、馴染みの職員と一緒にいることについての取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員研修を採用時に実施するとともに、認知症高齢者へのケアについての研修を2か月に1回は行うなど、積極的な取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームのブロック研修会には必ず出席し同業者との意見交換を行っている。また他地区のホームに職員を派遣しての見学研修など、積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前は見学(本人・家族等)を行っている。また入居当初は他の入居者との人間関係に注意・配慮して食卓位置を決めるなどの対応を行っている。	○	いきなりのサービス利用に不安な場合など、馴染みの人に来てもらい安心感を持ってもらったり、数回、食事を共にしたり午前中のみ共に過ごしたりと工夫してほしい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩として捉え、料理方法を習ったり、子育てなどの相談に乗ってもらうなど、共に支えあう関係構築がなされている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを従来の包括方式にセンター方式を加味して個別性を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式をアセスメントに加味したことにより、より深く個別の介護計画の内容について、入居者、ご家族と話し合いが出来てきている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状、状態の変化に伴い介護計画の見直しを行っている。定期には6ヶ月に1回での計画作りで実施している。	○	変化がない場合でも1か月に1回は、職員全員で意向や状態についての評価をされると更により良い計画となるので、今後の取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	来月より医療連携体制を整えるなど、サービス機能を広げる意向がある。		今後の地域・入居者・ご家族の要望に応じた機能の展開に期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1週間に1回はかかりつけ医による訪問診療が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、ご家族に意向の確認を行っているが、現在、ホームでの終末期ケアは行っていない。		今後、終末期ケアの取り組みなど、職員の勉強も含めて積極的に取り組んでほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮は職員も強く意識しており、損ねるような言動は見られない。個人情報の保護についても同意の範囲内で適切に行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のホームでの生活の中で、出来る限り時間に追われることの無いよう、職員が特に意識し臨機応変な対応を心がけて行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は台所で職員、入居者が一緒に調理、味付けし、職員・入居者共に楽しそうに作業されている。また配膳も入居者が先頭に立ち準備をされている。食事は職員も皆、食卓につき会話をしながらの楽しいものであった。時には近くのすし屋に行くなど、入居者に好評である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴も実施している。時間帯は希望とはなっていない。	○	出来る限り入居者の希望に即して支援したいと管理者・職員とも意識しているので、創意工夫で取り組んでほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買物、洗濯干し、食事の準備や片付けなど、入居者それぞれの得意分野で力の発揮ができるよう支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望者はカラオケに行かれたり、職員に余裕があるときは外出の機会を作っている。近所にバラ園があり、入居者の散歩道ともなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは2階に位置し、玄関の外には階段があるため、職員の目が届く時間(日中1~2時間程度)以外は鍵をかけている。管理者・職員ともに鍵を掛けることの弊害については十分理解している。	○	少しでも鍵を掛ける時間が少なくなるよう、今後も取り組みを続けてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	一昨年の台風、昨年の竜巻などを教訓にし、マニュアルの作成、避難訓練を実施している。	○	夜間時の対応や、地域・ご近所を巻き込んだ訓練等、積極的な取り組みに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員と一緒に食べながら偏食の無いように声かけや皿の取替えを行っている。水分を含めた摂取量も把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に季節の花が飾ってあったり、入居者全員の写真が掲示してありと、居心地の良い空間作りがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みのものが居室にあり、心地よく過ごせるように配慮がされている。		